

# 中小企業による CSV 実現に向けた八王子独自の仕組みの提案

## 市内学生の有効活用による地域の課題解決に向けて

杏林大学久野ゼミ職場町班

市村優典<sup>1)</sup>, 大國真紀<sup>1)</sup>, 佐藤珠実<sup>1)</sup>, 高野真衣<sup>1)</sup>, 高橋凌<sup>1)</sup>

長谷川貴一<sup>1)</sup>, 平井貴大<sup>1)</sup>, 長尾真志<sup>1)</sup>, 伊保善喜<sup>1)</sup>

指導教員 久野 新

1) 杏林大学 総合政策学部

本企画では、経営資源上の制約から CSR 活動を行う余裕がない中小企業の課題と現状のインターンシップでは成長を遂げることが困難である学生の課題を同時に解決するため CSV に着目した八王子独自の産学官連携制度を提案する。市内の中小企業と大学生が共同でプロジェクトを組成し、指導教員の専門的助言も得ながら、学生が大学で学んだ専門知識を活用して中小企業と共に地域の課題解決を目指し、結果的に当該中小企業の価値や利益を向上させることを目的としている。

キーワード : CSV, インターンシップ, 地域貢献

### I.提案概要

本企画では、経営資源上の制約から CSR 活動を行う余裕がない中小企業の課題と現状のインターンシップでは成長を遂げることが困難である学生の課題を同時に解決するための、CSV に着目した八王子独自の産学官連携制度を提案する。

### II.CSV とは

CSV (Creating Shared Value : 共通価値の創造) とは、経営学者マイケル・ポーターが提唱した概念であり、「企業が事業を営む地域社会や経済環境を改善しながら自らの競争力を高める」活動と定義される。つまり法令遵守や慈善活動の側面に重きが置かれていた CSR (Corporate Social Responsibility : 企業の社会的責任) のさらに上を目指し、地域の課題解決のための活動を、自社利益拡大につなげる攻めの経営戦略の一貫として捉える考え方である。

### III.背景と動機

2000 年代以降、日本でも環境・貧困問題の解決など社会貢献を目指す CSR への注目が高まったが、資金、人材、時間など経営資源上の制約により CSR を制度的に導入している中小企業の数は大企業の僅か 1/3 に留まっている (JETRO 調べ)。

一方、近年日本で実施されているインターンシップのあり方については、学生から多くの課題が指摘されている。例えば米国においては、原則として学生に対して責任と能力が求められる業務を長期にわたり任せることが多く、社会に出る前に学生が成長

を遂げる場所として機能している。しかしながら、日本企業のインターンシップは実施期間が「1 日限定 (ワンデイ)」のものが最も多く (リクルートキャリア調べ)、実施内容も「講義・座学」と「グループワーク」が約 8 割を占めており (キャリタス調べ)、企業説明会や集団面接の延長に留まるものが多い。この結果、若手社会人向けアンケートではインターンシップが「自身の成長に繋がった」との回答結果が 2 割未満であった (マイナビ調べ)。

そこで我々は、経営資源上の制約から CSR 型活動に従事する余裕がないという中小企業側の課題と、インターンシップの形骸化により自己成長の機会が限定されている学生側の課題を同時に解決すべく、地域の課題解決と中小企業の価値向上を同時に追求しやすいとされる「CSV」型のプロジェクトに市内学生を長期的に関与させる、八王子独自の産学官連携制度を提案する。

### IV.提案内容

本制度は、市内の中小企業と大学生が共同でプロジェクトを組成し、学生が大学で学んだ専門知識を活用して中小企業と共に地域の課題解決を目指し、結果的に当該中小企業の価値や利益を向上させることを目的としている。

共同プロジェクトの対象分野としては、例えば商店街の多言語化、外国人向け商品開発、市内の買い物弱者対策、地域野菜のブランディング、あるいは防災対策、市民向け法律相談など、地域の課題解決に資するもの、かつ多くのステークホルダーが受益

するものを念頭におく。プロジェクトの成果としては、商品開発型、啓発イベント型、ツール開発型などが想定される。基本的にプロジェクトを主体的に進めるのは学生であり、企業はプロジェクトの性質や企業の強みに応じて自社保有の商品、技術、会議・イベント・スペース、ノウハウ、人脈、資金などを適宜提供する。

プロジェクトの進め方としては、中小企業の負担軽減を最優先とし、学生達が企業に常駐する方法ではなく、原則として月に数回、学生（および必要に応じてゼミ教員）が企業を訪問、プロジェクトの進捗報告や打ち合わせを行うスタイルを採用する。

なお当制度導入初期段階においては、成功事例を作ることを目指し、意識の高い学生と意識の高い中小企業経営者を中心に呼びかけを行う。具体的には、学生発表会に参加するゼミや、八王子未来塾（HFA）参加企業などが候補となる。

最後に、各プロジェクトの成果は以下の2つ方法で広報する。第一に、コンソーシアム八王子学生発表会において共同プロジェクトの成果を発表する部門を追加、優れたプロジェクトについては学生と企業が共同で市長に対して成果を報告できる場を設ける。これにより、企業は自社の地域貢献を市民、他の企業、大学関係者、そして行政にアピールする事ができる。また、学生発表会で成果報告を行うことで、より多くの学生達に対して同制度に対する関心や参加意欲を高めることが可能となる。第二に、プロジェクトの成果を「はちおうじ就活ナビ」に掲載、学生が学生目線で文章や動画を発信する。このことにより、プロジェクト参加企業の就職先としての魅力発信にもつなげていく。

## V.先行事例

近年、我々のゼミでは企業と協力し、CSV活動とも呼べるプロジェクトを複数実施してきた。例えば大手着物商社と合同で織物の街八王子を活性化させるための「Cool Hachioji Yukata Festival」を実施したほか、大手鉄道会社とは外国人向けのおもてなしツールの共同開発を行った。中小企業によるCSV活動としては、以下の表に掲載されている先行事例が確認された（中小企業庁調べ）。

中小企業によるCSVの先行事例		
企業名	CSV取り組み概要	企業規模
株式会社あわえ	地方と都市空間でお互いの良い部分をシェアしあえる新しい関係を構築する地域活性化のモデル	従業員10人 資本金1,000万円
株式会社夢想像	地域経済の活性化方策、地域の資源である「温泉水」を活用した「温泉トラッグ」養殖	従業員10人 資本金3,000万円
有限会社ナルデン	大型店にはできない低成本以外のサービスに重点を置き実行することで、その違いを積極的に説明	従業員6人 資本金500万円
東シナ海の小さな島 ブランド株式会社	日常的生生活と生業に価値を見出し多様なビジネスを創造する島の豆腐屋	従業員11人 資本金10万円
有限会社トップリバー	「儲かる農業」を目指した積極的な営業活動を通じた世界初の「農業経営」	従業員42人 資本金1,000万円

## VI.行政の役割

当制度の運営にあたり、行政の役割は以下のとおりである。第一に、意欲の高い学生と中小企業とをマッチングさせるための場を提供すること。第二に、コンソーシアム八王子学生発表会および八王子市の就活サイト「はちおうじ就職ナビ」において、共同プロジェクトの成果を発信するための機会やページを提供すること。第三に、CSVを通じて地域課題の解決に貢献した中小企業を市として認定することである。

これらの仕組みにより、八王子市が中小企業のCSV活動に対して積極的に取り組んでいるというブランドイメージの形成に繋がる事も期待される。

## VII.新規性

この提案の新規性は以下の三点である。第一に、産学官が連携し、地域課題解決のためのCSV活動を制度化するという点。我々が調査した限り、前例は確認されなかった。第二に、共同プロジェクトの成果を学生と企業が合同で発表するという点。これは少なくとも八王子市の既存の取り組みでは存在しなかったものである。第三に、CSV活動を通して、八王子の中小企業において、責任を伴う「問題解決型・実践型のインターンシップ」を事実上経験するためのプラットフォームを市内学生に提供する、という点である。

## VIII.期待される効果

本提案の導入により期待される効果は以下のとおりである。経営資源上の制約に直面し、CSRやCSV活動に従事することが困難であった市内中小企業は、学生の柔軟な発想力と機動力、および大学教員の専門知識を利用することで、社会価値の創造

（地域活性化）と企業価値の創造（企業利益の増大）を同時に追求することが可能となる。またプロジェクトを通じて出会った学生達との信頼関係が構築されることで、それら学生を雇用する機会が拡大、人手不足の問題解決にもつながることが期待される。中小企業との共同プロジェクトに参加する学生達は、大学での学びを実践する機会、社会人とともにプロジェクトを進めていく機会を得ることで、形骸化したインターンシップでは得られない体験をし、成長を遂げることができる。

行政は、他地域に先駆けて市内中小企業と学生がCSVに力を入れているという先進市としてのイメージに加え、日本の形骸化したインターンの見直しに着手した先進市としてニュースバリューが得られるであろう。